中学生連載企画

私たちのふるさと松山学 No.47

西中学校

歴史がたくさん吉田の里

私たち1年生が校区で吉田の里めぐりをしました。地域のことについて詳しく知るため、神社やお寺を「生石地区史跡めぐりマップ」で探しながら歩きました。

生石八幡神社の長～い歴史

生石八幡神社

生石八幡神社は、貞観元（859）年奈良県大安寺の行教和尚が大分県の宇佐八幡から戻る途中、垣生山が光り輝いているのを見て、「何かいわれがあるにちがいない」と言われたことから、村人たちが八幡宮を勧請し、建てられたという歴史ある神社です。神社御神徳は安産育児で、伝説も多いといわれています。春祭りでは、地域の安全・平穏無事を祈念します。

神社では1月1日～6日まで、全ての行事に太鼓を使用しない年頭無鼓が行われているそうです。

吉田の里めぐりでは、神社の大切さ、重要さを知ることができました。

履脱天満宮のヒミツ

吉田の里めぐりの時に、「生石地区史跡めぐりマップ」を参考にしました。マップによると、久保田町にある履脱天満宮は、長保元（999）年の時に、二神殿を建立し、伊予の守護が尊崇したといわれています。菅原道真公が安楽寺の庵で履を脱ぎ、数カ月いたといわれていて、その場所が履脱天満宮です。また、境内には松山七不思議の一つ、「星占いの池」があるとされています。

履脱天満宮

毎年2月25日（現在は2月中の日曜日）に例祭が行われています。

餅まき行事や特産品販売などが行われ、にぎやかなお祭りとなっています。

（中田　美夢）

垣生山に残る垣生城跡

垣生山の頂上には、かつて吉田の里を治めていた垣生氏が城主を務める垣生城がありました。

今は景色の良い公園となっていますが、城跡として社がまつられています。この「垣生」という名前が隣町の垣生の町名になったとされていますが、高岡町についての記録は残っていません。山のふもとには山を取り囲むかのように神社が並んでおり、町を守ってくれています。（桝本　未侑）

垣生城跡に建てられた垣生山神社　画：桝本未侑

人々に親しまれる神社

若宮神社

左の写真は、若宮神社の本殿です。山沿いに建てられているため、あまり人がいないのに、千羽鶴やミカンが供えられていて、人々に親しまれていると感じました。

その他、弓敷天満宮にも、本殿へのお供え物がありました。弓敷天満宮の本殿は、山の少し上の方にあり、登りにくくなっています。それでもお供え物があることから、人々の心のよりどころなのだと感じました。神社などを調べていると、人々の思いが残されていたり、人と深く関わりがあることが分かりました。（和田　蒼太）

戦争時の様子をつげる掩体壕

第二次世界大戦末期につくられた、軍用機を上空の敵機から守るための格納庫・掩体壕が南吉田町に残されています。

掩体壕

これは、全国の軍用飛行場につくられた施設です。掩体壕は、高さ約5・1メートル、幅約23・1メートル、奥行き約12・2メートルと軍用機を入れるため大きくつくられ、アーチ型をしています。今は、三つしか残っておらず、現在は平和学習に使われています。（森田　碧音）

吉田の歴史に、たくさんの魅力を発見

後列左から　和田さん、中田さん、久保さん（題字）
前列左から　森田さん、桝本さん、谷岡さん（いずれも１年生）

今回、「吉田の里めぐり」で校区内を回り、自分で調べることで、地域の良さを発見できました。教科書で習う歴史上の人物が、この地域と関わっていることなどが分かり、親しみを感じました。また、初めて見学した神社などもあり、貴重な体験ができました。これからも歴史に興味を持ち、関わっていきたいと思いました。

先人と文化の読み物教材
広がれ！ふるさと松山の心

松山ゆかりの先人78人と伝統文化や歴史のお話17話を掲載しています。購入方法など詳細は市教育研修センター事務所☎989-5144へお問い合わせください。

「語り継ぎたいふるさと松山 百話 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」は学校教材です